

出雲市の人口ビジョン骨子（案）

1. 出雲市における人口の現状と将来推計

(1) 人口の現状

- 国勢調査人口は、2000年の173,776人をピークに近年は減少傾向
- 2010年以降の人口動態をみると、これまでの取組の成果により、社会動態は微増傾向。近隣自治体からの転入増と市内企業に勤める日系ブラジル人の転入増が要因
- 自然動態は、平成15年（2003）から死亡者が出生数を上回る自然減の状態
- 年代別の人口移動の特徴は、高校・大学卒業時の就学・就職による転出と、20代後半からの転入。特に大学・専門学校卒業者の8割が県外就職しているという現状

(2) 将来人口推計

- 国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2010年の171,485人の人口は、今後減少し続け、2040年には138,028人（29.1%減少）となる見込み

2. 出雲市のめざすべき将来の方向

(1) 既設定目標（出雲市総合振興計画「出雲未来図」）

平成33年度(2021) 住基台帳人口17万人台

(2) 新たな目標設定

◆合計特殊出生率を上昇させ自然増につなげる

2015年	1.75
2020年	1.90
2030年	2.10
2040年	2.30
2050年	2.30

◆転入を促進し、社会増につなげる

2010～2015年	社会増	1300人
2015～2020年		1600人
2020～2025年		1600人
2025～2030年		1600人

- ★2020年3月の目標人口
（2015年国勢調査をもとにした推計人口）
169,000人（社人研 約163,000人）
- ★2060年の目標人口
150,000人台（社人研 約111,800人）

出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略（H27～31）骨子（案）

1. 基本的視点

市民が安心して暮らし、働き、子どもを産み育て、持続可能な「出雲市」を構築していくために、本市の持つ特性・魅力を生かし、人口、経済、地域社会の課題に一体的・持続的に取り組んでいく。

2. 政策の基本目標と具体的施策例

(1) 出雲の特性を生かした魅力ある雇用の場を創出

- 大学卒業の就職時に人口流出
 - 若年層の正規雇用率が低く、不安定な雇用形態が結婚への妨げとなっている
- ⇒出雲の自然や文化・歴史を生かした商品開発や新たな産業を創出するとともに、既存産業や地元商工業者の活性化により安定した雇用を確保していく

- ・日本遺産登録による情報発信と文化財資源を活用した新たな観光産業の創出
- ・観光プロモーションの実施
- ・出雲大社を拠点とした周遊観光ルートの設定
- ・出雲空港名古屋路線利用促進
- ・Wi-Fi、キャッシュレスサービスの整備（外国人観光対策）
- ・出雲ブランド認定制度による商品のブラッシュアップと販売促進
- ・農業従事者（担い手）の育成と集落営農組織のステップアップ
- ・コミュニティビジネス（地域での6次産業化等）の推進
- ・医療ツーリズムなど医療・福祉・企業等の連携による新たなビジネスの創出

(2) 出雲との縁をつなぎ、ひとの流れをつくる

- 大学卒業時の就職の際に転出が増加するものの、25歳以降においては、転入が転出を上回る社会増の傾向
 - 昨今のスローライフ志向から、地元へのUターン、出雲への生活に憧れるIターン希望者の相談件数が増加の傾向
- ⇒“出雲暮らし”の魅力を発信するとともに、UIターン支援制度の充実や幼少期からのふるさと教育の充実等により、出雲へのひとの流れをつくる

- ・定住コーディネーターの配置
- ・出雲版CCRC（都会等の高齢者が移住し、健康状態に応じた継続的なケア環境で生活を送る地域共同体）創出支援
- ・ふるさとへの夢・愛着を育むふるさと学習の充実
- ・地元大学・専門学校の特色ある取組の支援と情報発信

(3) 出雲で縁を結び、子育てしていく希望をかなえる

- 結婚を阻む要因の上位が、経済的問題、仕事と家庭の両立、出産・子育てへの不安等
 - 本市の平成25年合計特殊出生率は1.75人と、全国第3位である本県の中でも上位に位置している。多世代同居や近居により家族間で子育てを助け合う地域性がある
- ⇒地域で結婚・出産・子育てを支えあう環境づくりの充実

- ・若年層を対象にしたライフデザイン講座の開催
- ・不妊治療への支援（不育症治療費助成）
- ・幼稚園での特別支援教育の推進
- ・企業へのワーク・ライフ・バランスの啓発

(4) 住みやすさNo.1のまちづくりを行うとともに、住民による主体的な地域づくりを進める

- 山陰有数の高度医療機関が集積し、様々な医療・福祉のニーズに対応でき、高等教育機関や文化・スポーツ施設、商業施設も充実した生活環境がある
 - 広い範囲に過疎地域やそれに類する地域が広がっており、地域の課題も多種多様である
- ⇒本市の特性を生かし、“住みやすさNo.1のまち”をアピールするとともに、それぞれの地域の課題を魅力ある暮らしに変えていく取組を進める

- ・防災行政無線の整備促進
- ・コミュニティセンターを活用した地域自主事業の促進
- ・出雲版CCRC創出支援【再掲】
- ・多様な文化に触れあえる機会創出
- ・自治会等応援条例の周知と住民自治活動に対する支援

(5) 広域連携による魅力ある圏域づくりをめざす

- 産業創出、交通ネットワークの充実等広域的課題に対しては、近隣市町で連携し、圏域の強みを生かした取組が必要
- ⇒これまでの広域連携の取組を生かし、圏域の魅力を生かし、経済の活性化を図る

- ・出雲空港名古屋路線再開を契機とした中京圏との交流拡大
- ・圏域内ものづくり企業のPR戦略